

様式第4号

特別児童扶養手当認定診断書

(知的障害・精神の障害用)

(ふりがな) 氏名		生年月日		平成・令和 年 月 日生(歳)	性別	男・女	
住所		(住所地の郵便番号)		都道府県 市区			
① 障害の原因となった傷病名		ICD-10コード()					
② 傷病発生 年 月	主な精神障害	平成 年 月	③ 合併症	精神障害			
	合併精神障害	令和 年 月		身体障害			
	合併身体障害	令和 年 月	④	①のため初めて医師の診断を受けた日		平成・令和 年 月 日	
⑤ 現病歴(陳述者より聴取)		陳述者の氏名 患者との続柄					
ア 発病以来の病状と経過		イ 発病以来の治療歴 (病院名) (治療期間) (入院・外来別) (病名) (主な療法) (転帰)					
		(ア) 年 月 ~ 年 月 入・外 (イ) 年 月 ~ 年 月 入・外 (ウ) 年 月 ~ 年 月 入・外 (エ) 年 月 ~ 年 月 入・外					
⑥ これまでの発育・養育歴等(出生から発育の状況や教育歴を陳述者より聴取の上、できるだけ詳しく記入してください。)	ア 発育・養育歴	イ 教育歴 乳児期 不就学 ・ 就学猶予 小学校(普通学級 ・ 特別支援学級 ・ 特別支援学校) 中学校(普通学級 ・ 特別支援学級 ・ 特別支援学校) 高校(普通学級 ・ 特別支援学校) その他					
障害の状態(令和 年 月 日現症)							
現 症	現在の病状又は状態像			左記の状態について、その程度・症状・処方等を具体的に記載してください。			
	⑦ 知能障害等	1 知的障害 知能指数又は発達指数 (IQ・DQ) テスト方式 () テスト不能 判定(最重度、重度、中度、軽度) 判定年月日(令和 年 月 日) 2 高次脳機能障害 ア 失行 イ 失認 ウ 記憶障害 エ 注意障害 オ 遂行機能障害 カ 社会的行動障害 3 学習障害 ア 読み イ 書き ウ 算数 エ その他() 4 その他()					
	⑧ 発達障害関連症状	1 相互的な社会関係の質的障害 2 言語コミュニケーションの障害 3 限定した常同的で反復的な関心と行動 4 その他()					
	⑨ 意識障害・てんかん	1 意識混濁 2 (夜間)せん妄 3 もうろう 4 錯乱 5 てんかん発作 6 不機嫌症 7 その他() ・ てんかん発作のタイプ() ・ てんかん発作の頻度((年間・月・週) 回程度)					
	⑩ 精神症状	1 幻覚 2 妄想 3 自閉 4 無為 5 感情の平板化 6 不安 7 恐怖 8 強迫行為 9 思考障害 10 心気症 11 中毒嗜癖 12 うつ状態 13 そう状態 14 その他()					
	⑪ 問題行動及び習癖	1 興奮 2 暴行 3 多動 4 拒絶 5 自殺企画 6 自傷 7 破衣 8 不潔 9 放火・弄火 10 器物破壊 11 徘徊・浮浪 12 盗み 13 性的逸脱行動 14 排泄の問題(尿失禁、便失禁、便こね、その他) 15 食事の問題(拒食、異食、大食、小食、偏食、その他) 16 その他()					
	⑫ 性格特徴						

現 症	⑬ 日常生活能力の程度 (必ず記入してください)	1 食事 (全介助 ・ 半介助 ・ 自立) 2 洗面 (全介助 ・ 半介助 ・ 自立) 3 排泄 ^{せつ} { おむつ必要 ・ おむつ不要 全介助 ・ 半介助 ・ 自立 } 4 衣服 { 脱げない ・ 着れない ・ ボタン不能 ・ 自立 }	5 入浴 (全介助 ・ 半介助 ・ 自立) 6 危険物 { 全くわからない ・ 特定の物、 場所はわかる ・ 大体わかる } 7 睡眠 { 夜眠らず騒ぐ ・ 時々不眠 寝ぼける ・ 問題なし }	
	上記の内容を具体的に記載して下さい。			
	⑭ 要 注 意 度	1 常に厳重な注意を必要とする	2 随時一応の注意を必要とする	3 ほとんど必要ない
	⑮ 医学的総合判定 (必ず記入してください)			
	⑯ 備 考			

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

上記のとおり、診断します。

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名

所 在 地

医 師 氏 名

記 入 上 の 注 意

- この診断書は、特別児童扶養手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなることがありますので、詳しく記入してください。
- ・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けて記入してください。
- ④の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく障害者が障害の原因となった傷病については初めて医師の診断を受けた日を記入してください。前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申立てによって記入してください。また、それが不明な場合には、その旨を記入してください。
- ⑦から⑭までの欄には、それぞれの欄の症状又は行動について該当するものを○で囲んでください。
- 知的障害の場合は、知能指数又は発達指数及び検査方式を⑦の欄に記入してください。
- 高次脳機能障害による失語障害があるときは、「言語機能の障害用」の診断書が必要となります。
- ⑭の欄は、⑦から⑬までの欄に記載する注意を要する症状の有無、程度及び頻度に応じて該当するものを○で囲んでください。
- 診断医が、「精神保健指定医」である場合には、氏名の上にその旨を記載してください。また、診断医が精神保健福祉センター、児童相談所又は知的障害者更生相談所の医師である場合には、「病院又は診療所」のところに、その精神保健福祉センター、児童相談所又は知的障害者更生相談所の名称を記入するだけで、「所在地」、「診療担当科目名」は記入する必要はありません。

※補足資料 (①障害の原因となった障病名 又は ③合併症にて、発達障害、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害と診断された場合は、こちらにもご記入ください。)

⑦知能障害等							◆	◆県使用欄
⑨意識障害 ・てんかん	区分 1意識混濁 2(夜間)せん妄 3もうろう 4錯乱 5てんかん発作 6不機嫌症 7その他()						◆	
	頻度 ※1 0・1・2・3・4	程度 ※2 軽度 中度 重度					◆	
⑩精神症状	番号項目	頻度 ※1	程度 ※2	番号項目	頻度 ※1	程度 ※2		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度 ◆		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度 ◆		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
⑪問題行動 及び習癖		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度 ◆		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度 ◆		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		0・1・2・3・4	軽度・中度・重度		
コミュニケーション	意思伝達手段	1. 言葉 2. 文字 3. 絵や写真 4. その他()						
	意思疎通の状態 (上記の手段を用いた場合)	0. 意思疎通ができる 1. 身近な事柄であれば、意思疎通ができる 2. 半分程度は相手の意図が伝わる、相手に伝えられる 3. 十分相手の意図が伝わらない、相手に伝えられない 4. 意思疎通ができない。その結果、精神症状・問題行動が見られる					◆	
⑬日常生活能力 の介助の程度	1. 食事 介助程度 ※3	0・1・2・3・4	2. 洗面	0・1・2・3・4	3. 排泄	0・1・2・3・4	◆	
	4. 衣服	0・1・2・3・4	5. 入浴	0・1・2・3・4				
	6. 危険物	0・1・2・3・4	7. 睡眠	0・1・2・3・4				

補足資料の記入上のお願ひ

様式第4号 特別児童扶養手当認定診断書にて記入・○で囲んだすべての事項について記入してください。

※1 頻度 については、次の中から該当する番号を選んでください。

【 0. ない 1. 稀にある、過去にあった 2. 時々ある(1か月に1回以上) 3. 頻繁にある(1週間に1回以上) 4. 毎日ある 】

※2 程度 については、次の中から最も適するものを選んでください。

【 軽度 : その症状・問題行動について時々注意や配慮が必要となる程度、 中度 : その症状・問題行動があるために、常に注意が必要な程度、 重度 : その症状・問題行動が著しいため、常に保護が必要な程度 】

※3 介助程度 については、次の中から該当する番号を選んでください。

【 0. 介助不要 1. 介助不要だが、見守り・言葉かけは必要 2. 部分的な介助が必要 3. 半分くらい介助が必要 4. 全介助 】